

・論点について

ペイオフ本来の目的である「預金者の自己責任の確立（護送船団行政の決別）」「破たん処理コストの抑制」について論文のテーマとし、ディスカッションの議題とした。

・共通点

「預金者の自己責任の確立」

銀行のディスクロージャーが発達したこと、実際、ペイオフ部分解禁時に預金シフトがシフトしたことを考えると、預金者の自己責任の確立はある程度達成される。

「破たん処理コストの抑制～ 預金保護の公的資金～」

預金保護枠が狭まり、その分公的資金注入額が減るので処理コスト抑制となる。

・相違点

「破たん処理コストの抑制～ 銀行を倒産すべきか、その際公的資金は注入すべきか～」

そもそも銀行を潰すべきかという点において、両ゼミに意見の食い違いがあった。望月ゼミは「システミックリスク」があるため銀行は潰すべきでなく、そのための公的資金注入はいたしかたないと考え、一方、泉ゼミは公的資金注入を行うと「モラルハザード」が起きるため、注入すべきでないとの主張となった。双方とも、妥協点が見出せなかった。

・望月ゼミの意見

<破綻前>

政府：金融機関の監視

預金者：金融機関を選別するための情報収集

<破綻後>

政府：経営改善

詳細

大手：公的資金の予備的注入による経営改善

地銀大手：公的資金による経営改善

中小：吸収、合併、統合による経営改善

・泉ゼミの意見

<破綻前>

政府：ディスクロージャーの徹底・金融機関側に構造改革を促す

預金者：金融機関を選別するための情報収集

<破綻後>

政府：ペイオフ方式による公的資金注入、その後、破綻した金融機関を解散

詳細

大手・地銀：受け皿金融機関が見つからなかったら、完全倒産。見つかったら吸収合併。

破綻して、さらに受け皿が見つからなかったらそのまま解散。

・司会から

金融機関の倒産について政府が介入すべきか、すべきでないかという問題は、望月ゼミの「システミックリスクを根拠とした公的資金注入の賛成」と、泉ゼミが主張した「モラルハザードが起きるため注入の反対」という主張は双方に正しさがありました。政府としては、現在、金融庁が主導となって業務改善命令、不良債権半減目標、経営健全化計画を提出させるなどをして、以前の護送船団方式とは違った形で金融機関の社会性を尊重しながら、企業としての収益力も重視し、極力潰さないように、極力モラルハザードが起きないようにしているのではないのでしょうか。

総括

論文を書くに至るまでは、ほぼ当初計画した日程通りにやれました。作業工程においては、トラブルや焦りもなく、スムーズに論文を書けました。振り返ると中間レジュメを制作する際に、締め切りぎりぎりになってしまった事を反省し、その後の工程を計画通りに時間に余裕をもってやろうということを班員みんなが自覚した結果ではないのでしょうか。来年の新人戦でもこのように計画的にいけば、そこまで焦ることも無いと思うので、参考にしていきたいです。

後半は、論文を書いて交換してから論点がズレていることに気付き、それからは相手と論点を合わせるのに大変でした。やはり論点については、最初の段階でよく慎重に話しておかなければいけなかった事で、相手とのコミュニケーションをよくはからなかった事が新人戦の一番の反省点です。それが本番でも影響が出てしまいました。

当日は、お互いの意見に異なった主張があり、私たちの班にはない視点から考えることができました。今回はペイオフを題材として、泉ゼミさんの方々と討論をしたわけですが、結果的には良い議論ができたと思います。両班質問も多く、特に問題も無く進行していききました。

新人戦をとうして他のゼミと討論というなかなか出来ない経験もできました。そして、何よりも初めて論文を書き上げた事がいい経験になりました。